

京都の跡継ぎは誰？

ユースACTプログラム

2008年度 報告書

ユースACTプログラム実行委員会



はじめに

高校生が社会づくりの担い手としての自覚と自信を育む「ユース ACT プログラム」

現在、京都地域でどの程度の高校生が、まちづくり活動に参加しているのでしょうか。教室の中での地域学習やまち歩きを通じた地域理解の取り組みはあっても、街の中でまちづくりの実践活動に取り組んでいる事例は珍しいでしょう。

若者が社会づくりの担い手として育っていくためには、知識や技能の習得のみではなく、行動する態度の形成や、状況や場面に応じて知識や技能を使いこなす応用力が必要です。そうしたものの形成には、「現場」での実践体験活動が不可欠です。

そこで、学校外の現場でのボランティア学習やサービスラーニングへの注目が高まっています。しかし、大学生対象プログラムの充実度と比較して、高校生対象プログラムは皆無に等しい現状です。高校時代に、若者は「こども」から「おとな」への本格的な移行をスタートさせ、人格形成を大きく進めます。この人格形成のタイミングを、社会づくりの担い手としての自覚と自信を育むことを目的に、ユース ACT(Active Citizenship Training) プログラムは実施されています。

具体的には、高校生が学校を超えて

集った仲間と一緒に「まち」と向き合いながら、各自の社会への問題意識を育み、まちを良くするための具体的企画を立案します。そして、その企画を4ヶ月間の間に実施し、最後は自己評価と社会発信（活動報告）まで取り組みます。PDS(Plan-Do-See) サイクルに一貫して取り組むことで、多様な状況への対応力が高まり、また実践的な行動力が身に付きます。

また、高校生をサポートする大学生についても、高校生の企画を捉えながら、プログラム本体の企画運営も行い、社会の担い手を育てるいとなみに目を向けることにつながっています。

ユース ACT プログラム 実行委員会の役割

本プログラムの実施にあたっては、実行委員会形式をとっています。2008年5月に、NPO 法人きょうと NPO センター、NPO 法人ユースビジョン、京都市福祉ボランティアセンター、財団法人京都市ユースサービス協会、同志社大学大学院総合政策科学研究科、シチズンシップ共育企画からなる実行委員会を設立し、事務局をシチズンシップ共育企画に置きました。

市民活動支援、青少年支援、福祉、高等教育などの各分野から京都のまちづくりに取り組んでいる団体が、これからのまちの担い手である高校生や大学生を育成する視点から企画運営に取り組んでいます。また、各団体が関係する地域資源と高校生・大学生をコーディネートする役割も持っています。

